

広報あさくら

[お知らせ版]

2019
平成31年
3月15日号

No.311



玉鷲関、おめでとう！

1月の大相撲初場所で初優勝した玉鷲関が、2月19日、市を訪問しました。

玉鷲関が所属する片男波部屋は、大相撲九州場所での宿舎を朝倉農業高校跡地（三奈木）に構えており、その縁で優勝報告も兼ねて仮設住宅などを訪れました。各地では拍手で出迎えられ、大きな体や手に歓声が上がり、握手や記念写真、赤ちゃんの抱っこを求める光景が多く見られました。

「朝倉の皆さんのおかげで優勝できた。良い報告ができる嬉しい」と笑顔で玉鷲関。また、同日、玉鷲関を市親善大使に任命。夢と希望を与えてくれた玉鷲関の今後の活躍に期待が膨らみます。



● 団員が不足していると感じます。仕事をしながら毎日夜中も火災に出動したり点検・訓練を行つたりで休みもなくなります。本人だけでなく家族も大変です。

【回答】消防団員の確保と待遇改善

消防団は、地域における消防防災のリーダーとして、平常時・非常時を問わずその地域に密着し、住民の安心と安全を守るという重要な役割を担っています。

● 市役所の建設は見直しまたは取り止めで良いです。

【回答】市役所新庁舎建設

消防団員の皆さん、本業を別に持っていますし、働き方もさまざまですので、消防団活動が難しい人もいると思います。消防団としても、負担を減らす話をしています。また、活動を広く知つてもらうため、さらなる広報活動に努めます。今後とも消防団活動にご協力いただきをよろしくお願いします。

● 大きな道にも街灯がなく、店の看板が明るいだけです。西鉄甘木駅のそばの道はさらに狭くて危ないです。

【回答】防犯灯の設置

市役所は、地震災害時に市の防災中枢拠点として、行政機能を維持させることから、早急な耐震性の確保が求められていますが、耐震改修しても老朽化は解消されず、いずれ建替が必要になります。

今回は、63件のご提案やご意見をいただきました

広報紙で紹介しきれなかった提案や意見は、市ホームページに掲載していますので、ご覧ください。

「トップページ」⇒「広聴」⇒「平成30年度 市長へのはがき」
※平成29年度分から確認できます。



市民の皆さんからの 「市長へのはがき」に お答えします



広報あさくら平成30年11月15日号で実施した「朝倉市長へのはがき」に、たくさんの方の提案や意見をいただきありがとうございました。

お寄せいただいた中から、その一部を紹介します。掲載できなかった意見についても、これからのかまづぐりの参考とします。

*いただいた提案・意見などへの個別の回答は行いません。

*紙面の都合上、趣旨を変えずに文を一部変えたものや割愛したものがあります。

問 市人事秘書課広報統計係 (☎ 22-1117)

● 不登校や精神障がいのある子どもやその家族の寄り添える、相談できる場をつくってほしいです。

【回答】

発達に障がいのある児童・生徒については、市内通級指導教室「あまぎ」(☎ 22-2790)・あさくら(☎ 52-1355)・甘木中学校通級指導教室(☎ 22-2437)で、一人ひとりに応じた学習の内容と方法で指導や教育相談を行っています。また、障がいのある人、その家族の相談場所として、市福祉事務所内に障がい者相談支援事業所を開設していますので、ご相談ください。

不登校児童生徒については、適応指導教室ステップ(☎ 22-3399)で学習面や心のサポートを行っています。さらに、教育に関する相談にも対応しています。

▲甘木・朝倉市町村会館にある適応指導教室ステップ

被災地では、いまだ災害復旧工事が進められており、被災者の生活再建はこれまでの課題です。まずは、災害復旧を最優先で進めることに努めます。しかし、豪雨災害の伝承と市民の防災意識の向上を図る必要があります。市では、福岡県・東峰村・筑前町とで行っている広域連携プロジェクト事業の中では、平成29年度から被災地や史跡を巡り、被災者の体験談を聞くモニターツアーを実施しています。

今後も被災者に寄り添いながら、災害復旧・復興支援などに取り組んでいきます。

● 広報紙は内容がとても良く毎回読んでいますが月2回は多いです。また、配布が大変なので民間のポスティング会社に委託するか、せめて月1回にしてほしいです。

【回答】広報あさくらの配布にご協力いただ

● 被災地や史跡を回るツアーや、朝倉市が災害に強い市に変わることをPRしては?

【回答】

被災地では、いまだ災害復旧工事が進められており、被災者の生活再建はこれまでの課題です。まずは、災害復旧を最優先で進めることに努めます。しかし、豪雨災害の伝承と市民の防災意識の向上を図る必要があります。市では、福岡県・東峰村・筑前町とで行っている広域連携プロジェクト事業の中では、平成29年度から被災地や史跡を巡り、被災者の体験談を聞くモニターツアーを実施しています。

● 災害に強いまちづくりのPR